

優秀賞

土砂災害は他人事ではない。

豊橋市立南部中学校 2年 大羽 望未

「速報です。気象庁による大雨情報が発表されました。山形県に線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっている状況になっています。それでは、今現在の山形県の様子です。」

夏休みに入り、しばらくして、テレビのニュースでこのようなアナウンスが流れて来ました。それを見ていた母は、「ええっ。一級河川の最上川が氾濫しているみたいだよ。大変なことが起きているね。」と言いました。私は、その時、正直に言うと、「ここは山形県じゃないし、そんなに大変な事なのだろうか。」と思いました。特に気にもとめずに、三日が経ちました。

昼食を食べながら、ニュースを見ていると、山形県での土砂災害の様子が流れていました。最上川が氾濫したことで、山形県の人たちの生活が一気に変化しているのが、とても良く分かりました。山形県と秋田県で記録的な大雨によって、これまでに三人の人が亡なくなっていました。行方不明者もいるようでした。パトカーで救助に向かっていた警察官二人が車ごと流され、パトカーはひっくり返った状態で見つかりました。警察官も一人はすぐに発見されましたが、亡くなっていたそうです。もう一人の警察官の人は、パトカーから一・七キロメートルも離れた川岸で、亡くなっていました。どちらも、二十歳代の人でした。

被害の様子は、それだけではなく、道路が土砂崩れで、集落が孤立状態になっていたり、家屋が倒れて浸水のために取り残されている人がいたり、停電や断水、ライフラインへの影響も出ているようでした。山形新幹線も、大雨の影響で線路ののり面が崩落し、八月中旬まで運転を見合わせると発表しています。ニュースの中で、土砂が家中に入って来て、片付けをしている女の人の、インタビューをしていました。

「どのくらいまで土砂が来たのでしょうか。」

「この食器棚くらいまでです。」

「今のお気持ちを…。」

「…すみません。何も考えられません…。」

そう言って、女の人は顔を両手でかくすようにしたところで映像が切り替わりました。

私は、気がつくと、昼食を食べるのも忘れて、テレビに夢中になっていました。とても衝撃でした。今まで、どこか他人の事だと思っていた自分が、恥ずかしくなりました。そして思わず母に聞きました。

「もし、山形県で起きていることが、私の住んでいる愛知県で起こったら、どうなるのかな…。」

「どうだろうね。最上川のような大きな川はないけれど、小さな川だって氾濫しないとも限らないし、土砂崩れだって、起こるかもしれないよね。」

私は、自分がこのような災害に遭ってしまったら、テレビに出ていた女の人のように、何も考えられなくなると思いました。また、あんなにすごい量の土砂が家の中に突然入って来たら命を守る行動が出来るのだろうか、と不安になりました。せかすように私は聞き返しました。

「あんなにすごい災害が来たら、私はどうやって自分を守れば良いのかな。」

「やっぱり、日頃から準備をしておくことが大切じゃないかな。調べてみたら。」

私はインターネットで調べてみました。土砂災害は主に台風や長雨、集中豪雨などの大雨により、地盤がゆるんで発生する事や、土砂災害はがけ崩れ、土石流、地すべりに分類され、それぞれに特徴があると分かりました。また、災害発生の前ぶれとして前兆現象が起きることがあるということも知りました。大雨警報が発表されていて、土砂災害の危険度が高まると土砂災害警戒情報が発表されるそうで、まさに山形県ではこの情報が出ていました。市区町村長が避難指示を出す判断材料や、自主避難を促す手がかりとして都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報だそうです。いざという時、正しい判断や行動ができるように気象情報は積極的に聞くべきだと思いました。

山形県で起きている災害は決して他人事ではないのです。一日でも早く、元の生活に戻れるようにと願っています。自然災害はいつ起こっても不思議ではありません。だから、私は自分だけ助かるだけではなく、家族を守る必要もあると思っています。地域の人たちとの助け合いも大切です。人間は一人では生きていけないからです。一人ひとりが防災の意識を高めて、正しい情報を得て判断し、行動をすることで被害は最小限になるのではないのでしょうか。私は中学生ですが、少しでも人の役に立てるように日頃から心構えを持ち、備えていかなければならないと思いました。

優秀賞

土砂災害から身を守るためには

豊橋市立豊城中学校 2年 飯田 真梨

二〇二一年、七月、私はテレビのニュースで見た土砂災害の報道が強く心に残っています。そのニュースでは豪雨だけでなく、人の手によって規制以上に積み上げられた「盛り土」が土砂災害の被害を大きくさせたと話していました。自然災害でももちろん恐ろしいですが、人災と聞くともっと苦しいし、何かできることがあったのではないかと悔しい思いをした人も多くいたと思います。被害を受けた人々の悲しみや恐怖が映し出されるのを見て、私は災害の恐ろしさを改めて感じました。

ニュースの中では、あるおじいさんが土砂災害によって妻を亡くし涙ながらに「孫の成長を見せてやれないのが悔しい。」と語っていました。大切な人の命、平和な日常が一瞬で一変してしまうということを知って、災害に対する備えの重要性を感じました。

被災地の映像を見ると、水に流された木や家の様子があり、その瞬間に自分の家族や友人が危険にさらされることを想像しました。私たちの生活の中でもいつ、どのような災害が起こるかわからないということを実感させられました。このようリスクにさらされているということを踏まえて、私たちにできる防災対策を考えることが重要だと感じました。

そこで、なぜ土砂災害が起こるのか調べてみました。日本に土砂災害が多い理由は主に、地形や形質、気候、地震、台風の頻度などが影響しています。その中でも山間部や斜面が多い地域では土砂災害の危険性がさらに高まります。

では、具体的にどのような対策をしたらよいのでしょうか。

まず、私たち一人ひとりが家の周りや住んでいる地域の土地の状況を知ることが大切だと考えました。そうすることで、自分の地域に起こることが予想される災害に効率よく対策できると思います。例えば、山が近くにない地域では土砂災害は起こりにくいと予想できるので、それ以外の地震や津波などの対策をするべきだと気づくことができます。

次に、家族で災害時の避難場所や連絡手段を確認し、定期的に話し合うことが大切だと考えました。私は休みの日などは特に家族が近くにいることが多いので、一緒に考えることが必要だと感じました。また、家族と離れているときに集合場所などを確認しておくことで少しでも安心できると思います。

さらに、防災訓練に参加し、近隣の人々と協力して災害時の対策を考えることも大切だと考えました。学校でも防災訓練は行われていますが、災害が来るときが必ず学校で過ごしている時間とは考えられません。実際に災害が起こり自分や家族が助かったとしても、冷静ではいられないかもしれません。なので、自分の地域でも防災訓練に参加することで、防災訓練を思い出しながら行動できるかもしれません。

このように、災害を防ぐ取り組みはたくさんあります。中にはすぐに実践できることもあるので、私もできることから対策していきたいと思います。土砂災害が起こりやすい起こりにくい関係なく、対策して損はないと思います。なので、自分が住んでいる地域に合う対策を考えることが重要です。

最後に、私たちの災害に対する意識と行動が土砂災害などの被害の対策に大きな影響を与えることがわかりました。私たちの力で自然災害を完全に防ぐことはできませんが、日常生活の中での小さな努力や地域の取り組みが大きな被害を防ぐ一歩となると思います。私

たち一人ひとりが常に防災意識をもって、小さなことでも行動に移すことがこれからの災害から命を守るために必要だと考えました。

この作文を通して土砂災害について知り、自分たちにもできる対策を考えるいい機会になりました。これからも、ニュースや日常生活の中で防災意識を持ち、災害による被害を少しでも減らせるような取り組みをしていけたらいいなと思います。